

瀬戸内国際芸術祭の作品、海に流れてくるゴミで制作



柳川観光を再構築し 唯一無二の観光地に

4月に地域おこし協力隊になりました横山真平です。前職は車の設計や地域芸術祭のコーディネーターとして働き、地元柳川へUターンしました。どうぞよろしくお願ひします。

幼少期は「柳川は有名な観光地」という自負がありました。九州を出ると違いました。東京では「柳川鍋の?」「高校野球が強い所?」そう答える人が8割です。しかし、認知度の低さはチャンスです。魅力に気付く余地があるからです。前職で担当した瀬戸内国際芸術祭では、過疎化が進む島々に期間中100万人以上の人々が来場しました。

柳川も魅力を再構築していく必要があります。身近なことでも外から見れば面白いことが多くあるはず。そして個人ではできないことでも全体で動くことで、できることがあると思います。地域に必要なのは「よそ者」「若者」「馬鹿者」と言われます。よそ者ではない、若者ではなくなりつつある私は、もの言う馬鹿者として生まれ故郷に貢献したいと考えています。



横山 ^{しんぺい}真平 (34歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当